

富岡製糸場 観桜会

製糸場内には樹齢50年以上におよぶ桜の木が施設と共に守られ元気に育ち、春には元気な花を咲かせます。赤れんが倉庫と抜けるような青空とが見事なコントラストを見せ、多くの来場者に感動を与えています。製糸場を彩る桜を堪能し、在りし日の製糸場に思いをはせ、遠方から来場するおおぜいの観光客の皆さんと交流し、一丸となって世界遺産登録に向けて取り組んでいく機会とするために、今年も観桜会を開きます。お出かけください。
 ※市民無料開放ウィーク、桜のライトアップについては、桜の開花状況により、日時が変更になる場合があります。

主催 富岡製糸場世界遺産をめざす連絡協議会、観桜会実行委員会
 共催 市、教育委員会
 問い合わせ 世界遺産推進課 ☎64-0005

- 市民無料開放ウィーク
 日時 3月26日(土)～4月10日(日) 午前9時～午後5時 (最終受付：午後4時30分)
- 桜のライトアップ
 日時 3月26日(土)～4月10日(日) 午後6時～8時
 会場 西繭倉庫前、プリユナ館南側 ※正面玄関よりご入場ください。
- 観桜会イベント
 日時 4月2日(土)・3日(日) 午前10時～午後3時
 会場 西繭倉庫前、東繭倉庫南側、プリユナ館南側、食堂 (4月3日の俳句会)
 内容 野点、俳句会、演奏・合唱会、ファッションショー、富岡シルク製品の販売、各種物販など
 ※イベント会場および内容は、変更になる場合がありますので、ご了承ください。

「着物de花見」でファッションショー 参加者募集

観桜会イベント時に開催される「着物de花見」でファッションショーの参加者を募集します。昔の着物や街着をお持ちの人は、ぜひご参加ください。
 申し込み・問い合わせ 3月25日(金)までに、NPO法人富岡製糸場を愛する会(事務局：しのめ信用金庫 ☎027-330-1174)へ。
 ファッションショー日時 4月2日(土) 午後1時30分から

皆さんもいっしょに考えてみませんか
 傍聴にお出かけください

3月14日(月) 富岡製糸場整備活用専門委員会

富岡製糸場整備活用専門委員会が開催されます。傍聴ができますので、申し込みの上、お出かけください。

日時 3月14日(月)、午後1時～4時
 会場 富岡製糸場 食堂

内容 富岡製糸場整備活用計画について
 次年度の保存修理について

申し込み・問い合わせ 傍聴を希望される場合は、3月7日(月)までに、電話で世界遺産推進課(☎64-0005)へ。
 ※会議傍聴については、見学科(入場料)は無料です。

整備活用専門委員会

文化財保護施策、近代産業遺産、市の文化財などに造詣が深い専門家で構成された委員会

文化財保護施策、近代産業遺産、市の文化財などに造詣が深い専門家で構成された委員会
 会で、保存管理計画で示された「活用の基本方針」を前提に、富岡製糸場における整備活用を検討し、まとめる組織です。
 専門委員会は、平成19年度から開催されており、今回で第12回となります。平成20年度には、各建造物および敷地の活用方針を示しました。平成21年度には、その活用方針を踏まえ、各建造物および敷地での具体的な主たる活動を検討し、整備方針へと展開しました。

現在は、今までの検討結果を踏まえ、整備活用の具体例をまとめるとともに、今後の整備活用の指針となる「整備活用計画」の策定に取り組んでいます。



富岡製糸場へお出かけを 毎月1日は市民無料開放

毎月1日は市民であれば無料で入場できます。開場時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

シリーズ 富岡製糸場の世界遺産登録



明治末頃の様子

3基の貯蔵所跡
 荒船風穴には3基の貯蔵所跡があり、今でも冷風が吹き出しています。現在は、地下構造に
 今でも冷風が吹き出している
 貯蔵により年1回の養蚕が夏や秋にも可能に
 養蚕が生み付けられた紙を蚕種紙と呼びます。この蚕種紙を木箱に入れ、冷気の中で貯蔵しておくことにより、ふ化の時期を遅らせる事が可能になりました。これにより、それまで年1回しかできなかった養蚕が夏や秋にも可能となり、繭の増産に貢献しました。

今回は、富岡市と群馬県などの関係自治体で世界遺産登録を目指している「富岡製糸場と絹産業遺産群」の中から、平成22年2月22日に国指定史跡に指定され、蚕種の貯蔵など富岡製糸場とも関連の深い「荒船風穴」についてのお話です。
 夏でも摂氏2度前後の冷風
 日本一の蚕種貯蔵所
 荒船風穴の中は、夏でも2℃前後の冷風が吹き出す場所とな

富岡製糸場の世界遺産登録

第6回 荒船風穴(下仁田町)



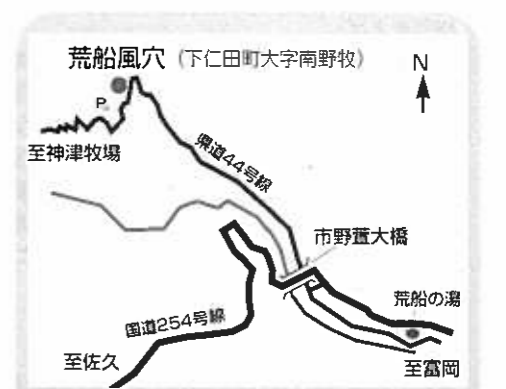
現在の様子

ついでです。これを利用して、明治の末から大正時代には、日本一の貯蔵能力を誇る蚕種(蚕の卵)貯蔵所として、全国2府32県から蚕種の冷蔵依頼を引き受けていました。

あたる石積部分が残るだけですが、かつては、土蔵式の建物が石積みを覆うように建てられており、地下2階、地上1階の3層構造になっていました。これにより夏場でも、急激な温度変化を与えずに蚕種紙を出し入れすることができました。
 高神社蚕業学校で学んでいた庭屋千尋がこの場所に着目
 経営者の庭屋静太郎には千尋という息子がおり、高神社蚕業学校で学んでいた際、冷気が吹き出すこの場所に着目しました。温度調査の結果、蚕種貯蔵に適していることが判明すると、1号風穴を明治38(1905)年9月に起工、41(1908)年に2号風穴が、大正3(1914)年頃には3号風穴が完成しました。3基の風穴を合わせた蚕種貯蔵能力は、110万枚に及びました。風穴には管理棟、7.5坪ほど離れた庭屋静太郎の自宅には春秋館という事務所が置かれ、その間には私設電話が引かれていました。蚕種の輸送は、上野鉄道で下仁田駅まで、そこから春秋館まで馬車や自動車、春秋館から風穴までは人や馬で運びました。規模、冷蔵の能力ともに優れており、通信や輸送の近代技術を利用することにより、全国からの蚕種

貯蔵の委託に応え、全国の養蚕多回熟化に貢献しました。
 電気による冷蔵普及で昭和10年頃役目を終える
 荒船風穴は、電気による冷蔵が普及した昭和10年頃には、その役目を終えましたが、養蚕の近代化に貢献した施設として重要であり、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして、世界遺産登録を目指しています。

世界遺産に推薦されるために
 こうした絹産業遺産群とともに富岡製糸場がより早く推薦されるためには、地元市民の皆さんの声が大きな力となり、登録審議の際には地元住民の理解と熱意も評価されます。市民の皆さん、まずは富岡製糸場における大きな力となってください。



※冬期は路面の凍結や積雪などがあり、また冷気も出ないことがあるため、春～秋の見学がお勧めです。
 ※足場の悪い場所がありますので、じゅうぶんにご注意ください。

問い合わせ 富岡製糸場(世界遺産推進課) ☎64-0005